

裏面白紙

宗

丙 第二五二二日

官報報告

立案 大正二年五月廿三日  
決裁 大正 年 月 日

宗秩察總裁久孫

宗秩察主事

宗秩察主事

宗秩察主事

宗秩察主事

大臣

次官

河村

從七位勳五等辛島 格持旨叙位ノ  
件

回覽  
二年五月廿四日

五月廿三日  
九月廿三日

三十五

大正二年五月廿三日  
臺帳記入九月廿三日官報報告

宮内省

(元)



從七位勳五等辛島 格特旨敘位

ノ件

右謹テ奏ス

大正二年四月十七日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛

内

閣

内 一八四

甲子年

大正二年四月十七日

内閣書記官



内閣總理大臣

内閣書記官長



從七位勲五等 幸島 格別紙内務大臣  
上奏、通切續顯著ニ付 特旨敘任ノ件  
上奏相成可然也

從七位勲五等 幸島 格

特旨ヲ以テ 叙任ノ件

從七位勲五等 幸島 格

内閣

叙正七位

内務省 秘 第九二號

叙 位ノ件

元熊本縣熊本市長 從七位勲五等辛島

叙從六位 從七位勲五等辛島 格

右明治十二年出身熊本市師範學校  
副監事二十九年九月來數官  
任職同爾來改選每月熊本市長  
本職一月爾來改選每月職  
職一月爾來改選每月職  
本職一月爾來改選每月職  
納稅事務ノ力整基本財  
注キ就中ノ力整基本財  
ノノ職一月爾來改選每月職  
ノノ職一月爾來改選每月職

造等致シ勞  
殊明治二致シ勞  
在職中同郡地先八  
業ヲ計畫シ今郡有財  
シテ年々多額ノ收  
ニ至ラシメタルハ  
意企畫シタル者  
ニ顯著ナル者  
特ニ位ニ級進  
ヲ奏ス

右謹テ奏ス

大正二年四月十六日

内務大臣原



内務省

秘第九二号

辨外

位階勲等陞叙並褒章下賜之儀由申

熊本市長從七位勲五等 辛島格

右病氣之爲ノ辞表差出候ニ付別途進達致置知本人ハ資性闊達ニシテ堅忍不拔ノ象アリ明治十二年十二月廿三日熊本市師範学校副監事ニ出身其後熊本縣上益城郡書記熊本市縣上益城下益城郡書記熊本市縣御用係熊本市縣警部熊本市縣屬熊本市縣八代葦北郡長熊本市縣八代郡長ニ歴任去心明治三十年九月十三日

熊本市長ニ就職今日ニ至レリ其前後ノ在職年数ヲ通算スレハ三十有余年ノ久シキニ及ビ殊ニ八代郡長トシテハ同郡地先海面埋立事業ヲシテ今日ノ成功ヲ得セシメタルハ畢竟本人力企畫ノ賜ニシテ其功績ハ没スハカラス又明治三十年九月十三日市長就職後改選毎ニ膺選レ今日ニ至ル其間土木教育衛生納稅整理基金本財産ノ造成及事務ノ整頓等ニ関シ十六年間同一口ノ如ク拮据電勉ノ結果熊本市カ今日ノ繁榮ヲ来シタルモ、ニシテ其効績顕著ト認メテ特別ヲ以テ位階勲等ノ陞叙並褒章下賜ノ御詮議相成ル様致度別紙

也 効績調書及履歷書添屬此段内申付

大正二年一月二十三日

熊本縣知事 上山滿之進

内務大臣子爵大浦兼武殿

内務省

熊本市長辛島格効績調

熊本市長辛島格ハ舊熊本藩士ニシテ曾テ郡書記警部及縣屬等ニ歷任シ後本縣八代郡長ニ任セラレ居ルコト四年明治二十九年九月熊本市長ニ選舉セラレテ就職シ爾來今日マテ勤績シ其間任期ヲ重叔ルコト三期十有六年ノ久キニ及ヘリ嚮キニ八代郡長ノ職ニ在ルヤ同郡地先海面埋立事業ノ有望ニシテ郡有賤産ヲ造成スルニ屈竟ノ手皎タルコトヲ認メ時ノ縣知事大浦兼武氏ニ稟議シテ其出張ヲ請ヒ實地ノ巡檢ヲ經タルニ知事モ大ニ其舉ヲ贊セラレシカバ茲ニ愈ニ起業ノ計畫ニ着手シ其調査ノ進行中熊本市ノ聘ニ應シ

郡長ノ職ヲ辞シ市長ノ職ニ就キタルヲ以テ此海面埋立ノ事業ハ自ラ之ヲ完成スルコトヲ得サリシト雖モ其規画ハ確トシテ動スヘカラサルノ根底ニ樹キ其成算ハ炳トシテ火ヲ觀ルヨリ明ナルヲ以テ後ノ郡長皆ナ其遺圖ヲ紹キテ經營ヲ遂行シ遂ニ能ク其事業ヲ完成シ現今年々拾數萬圓ノ收益ヲ得ルニ至リシモノ固ヨリ起業以來歴代ノ郡長カ拮据經營ノ効ニ由ルト雖モ抑モ亦辛島市長カ全郡長トシテ在職セシ當時ノ創意企畫ノ効典ヲ力アリト謂フヘシ其市長ノ職ニ就キ任ニ臨ムヤ首トシテ旧來ノ弊風ヲ釐革センコトヲ期シ内ハ市政事務ノ整理ニ汲々シ外ハ民



情融和ニ努メ以テ市ノ福祉ヲ増進センコト  
ヲ念トセリ由來熊本市ハ藩政ノ當時ヨリ小  
黨分立シ明黨比目互ニ相拮抗スルノ風アリ  
維新後ニ於テモ其餘弊ヲ存シ延テ今日ノ政  
黨ニ変化シタリサレバ市ノ問題ノ如キニ付  
テモ常ニ統一ヲ缺キ物議紛々トシテ容易ニ  
帰着スル所ヲ見サルハ今尚舊ノ如シ然ニ本  
人ハ此間ニ處シ敢テ黨派ニ偏セズ中立ヲ標  
榜シ居中調停ノ態度ヲ以テ事ヲ處シ其穩健  
ナル思想ト公平ナル意見トハ以テ政士論客  
ノ口ヲ嚙スルニ足シリ又部下吏員ヲ御スル  
ヤ恩威並行寬嚴其宜シキヲ失ハズ其部下吏  
員トノ間ニ親密ナル關係ヲ保テル恰モ親子

ノ如シ其職ニ膺リ事務ヲ視ル恪勤精勵十有  
六年殆ント一日ノ如シ今日不幸ニシテ二豎  
ノ為メニ職ヲ辞セントスルヤ市民一齊ニ之  
ヲ愛ムノ情アルハ誠ニ偶然ニアラサルナリ  
今左ニ項ヲ分チ本人カ就職以來施設經營セ  
ル重ナル事業ノ梗概ヲ述ヘシ

第一土水

熊本市ナル山崎町ト稱スル一帯ノ區域ハ元  
ト舊藩士ノ邸宅在々相連リタル處ナリシカ西  
南ノ役ニ兵燹ニ罹リ其後第六師團ノ所屬ニ  
歸シ練兵場ニ充用セラレ其光景頗ル荒涼ヲ  
極メ帝ニ市ノ体裁ヲ損スルコト甚シキノミ  
ナラス高工業ノ發展ヲ阻害スルコト少カラ

ナリキ辛島市長深ク之ヲ慨シ所為ラク分區  
域ヲシテ変ヒテ市街夕ラシメ以テ商工業ノ  
發達ヲ謀ラハ市ノ慶福之ヨリ大ナルモノナ  
カラント乃チ陸軍省ニ交渉ヲナシ練兵場ノ  
全部ニ市ニ讓受ケ其代地トシテ飽託郡大江  
村内ニ於テ土地七萬坪ヲ買收シテ之ヲ陸軍  
省ニ提供スルコト即チ官公地交換ノ許可ヲ  
得タリ是即チ辛島市長カ在職中ノ一大事業  
トシテ數フヘキ市區改正ノ端緒ナリ其設計  
ニ依レハ練兵場跡地ニ縱横道路延長三千餘  
間ヲ設ケテ人車馬道ヲ區劃シ雨水溝延長六  
千貳百餘間下水溝壹千三百餘間及沈澱地掃  
除口燈火孔等ノ施設ヲ為シ其結果市街宅地

四万二千百八拾餘坪ヲ得東西ノ交通ヲ便ナ  
ラシメシカ為ノ東ハ戰役記念碑ヨリ直線ニ  
下追廻田畑町敷地ハ低地ナリ以テ築堤ヲ六間  
廢ル橋難工事ナリ等ヲ貫通シテ下通町ニ至ル  
新道路ヲ開設シ東部ト連絡セシメ西ハ鮎本  
城宇古城地内ニ幅四間長百九拾三間餘ノ新  
道ヲ開鑿シ坪井川ニ幅三間長二十四間ノ橋  
梁ヲ架設シテ新町方面ト連絡セシムルヘキ  
目論見ニシテ明治三十二年六月ヲ以テ起工  
ニ同三十四年三月全部ノ成功ヲ告ケタリ而  
シ水工事ニ要セシ總テノ費用ハ金三拾四万  
六千五百拾九円拾九錢貳厘餘ニシテ之ヲ細  
別スレハ左ノ如シ

交換地代并整理費

九九二〇四、二四七

古城内地均及道路橋梁費

一三、一二七、一九八

移轉費

一一二、一五六、四四三

市區改正事務所建築費

五六〇八、一〇〇

新市街宅地整理費

八六五八一、一一六

市區改正事務所費

二九、八四二、〇八八

計金

三四六、五一九、一九二

市區改正ノ工事茲ニ落成ヲ告ケ宅地ノ賣却  
ヲ開始スルヤ當時恰モ熊本市ノ經濟界ニ一  
大恐慌ヲ惹起シ銀行ハ殆ト皆支拂停止ヲ  
ナシ人心動揺ノ折柄トテ土地購買ノ如キ殆  
ト顧ルモノナキ情勢ナリシヲ以テ市區改  
正事業ニ對スル非難攻撃ノ聲四ニ起リタル

モ市長ハ自ラ信スル所アルヲ以テ更ニ動セ  
ストハ云ハ經濟界ノ不況ハ如何トモスル能  
ハス慘澹タル苦心ヲ以テ百方土地ノ賣却ニ  
手ヲ盡シタル結果幸フシテ僅ニ賣行ヲ見ル  
ノミナリシ其後經濟界モ漸次順況ニ復シ加  
フルニ三十七八年戰役ノ為ソ頃々景氣ヲ回  
復シ購買者相踵テ現出シ家屋モ亦隨テ改築  
セラレ今ハ全ク市塵梯比ニ碧瓦聖壁相錯ハ  
リ市内樞要ノ市街トナリ現下戸數七百ヲ算  
スルニ至レリ此處ニハ大藏省煙草製造所ノ  
支局存數千ノ職工ヲ使役シ盛ニ製造ヲナシ  
之ニ伴フ經費ノ如キモ約百万円ヲ下テスト  
云ハハ其部分カ市内ニ消費セラレモノトセ

ハ直接間接ニ受クル市民ノ利益ハ蓋シ甚大  
ナルハキヲ信ス初<sup>大藏省</sup>設局敷地トシテ市ニ特  
買ノ文涉ヲ為シ、ニ市ハ設局ノ設置ヲ歡迎  
ニ特<sup>好意</sup>ヲ以テ坪數壹万二千坪ヲ僅ニ四  
萬田<sup>後定價格金十二</sup>ノ少數ニテ特買ニ應シ  
夕リト雖設局設置ノ為ニ贏チ得タル繁榮ハ  
優<sup>其損失ヲ補フテ餘アリト謂フヘシ</sup>而カ  
モ是辛島市長ノ裁断、明ヲ稱セサルヲ得ス  
右市區改正ノ費途ニ充ツル財源ハ之ヲ公債  
ニ仰ケリ其明治三十二年ニ募集シタル公債  
ハ四拾貳万九千七百五拾田<sup>利率年</sup>ニシテ其  
公債償還ノ為ニ同三十七年ニ募集シタル新  
公債ハ壹万九千田<sup>利率上</sup>ナリ而シテ旧公債ハ

(2)  
同三十五年ヨリ毎年貳万八千六百田以上ヲ  
新公債ノ方ハ同四十年ヨリ毎年貳萬拾  
五分ノ一以上ヲ新市街宅地ノ賣却代等ヲ以  
テ豫定ノ如ク償還ヲ為シ同四十三年ニ至リ當時未償還額貳拾  
壹万六千田ヲ新公債<sup>利率年</sup>ニ借替ヲ為シ爾來八ヶ年毎毎年貳  
万七千田ヲ償還ス豫定ナリ方四十四年ハ豫定金額ヲ大正九年ニ等  
ク償還セシニ依リ現今未償還額ハ僅カニ拾万八千  
田ヲ餘ス<sup>此未償還ハ賣却地所代金ト將來賣却  
スル地所代金ト以テ二ヶ年ヲ出スレテ償還ヲ完了スヘシ</sup>  
ヤ將ニ其目的達セシトス其功勞ハ長ニ新市  
街ノ繁榮ト共ニ泯滅スルコトナラズハキカ  
前記市區改正ニ關聯シテ記スヘキハ熊本市  
信管理局ヲ熊本市ニ設置セラル、ニ當リ本

ハ直接間接ニ受クル市民ノ利益ハ蓋シ甚大  
 ナルハキヲ信ス初<sup>大蔵省ハ</sup>設局敷地トシテ市ニ特  
 買ノ交渉ヲ為シ、ニ市ハ設局ノ設置ヲ歓迎  
 之特ニ好意ヲ以テ坪數壹万二千坪ヲ僅ニ四  
 萬田<sup>後定價格金十二</sup>ノ少數ニテ特買ニ應シ  
 タリト雖設局設置ノ為ニ贏チ得タル繁榮ハ  
 優ニ其損失ヲ補フテ餘アリト謂フヘシ而カ  
 モ是辛島市長ノ裁断、明ヲ称セサルヲ得ス  
 右市區改正ノ費途ニ充ツル財源ハ之ヲ公債  
 ニ仰ケリ其明治三十二年ニ募集シタル公債  
 ハ四拾貳万九千七百五拾田<sup>利率年</sup>ニシテ其  
 公債償還ノ為ニ同三十七年ニ募集シタル新  
 公債ハ壹万九千田<sup>利率上</sup>ナリ而シテ旧公債ハ

(1)

同三十五年ヨリ毎年貳万八千六百田以上ヲ  
 新公債ノ方ハ同四十年ヨリ毎年貳萬拾  
 五分ノ一以上ヲ新市街宅地ノ賣却代等ヲ以  
 テ豫定ノ如ク償還ヲ為シ同四十三年ニ至リ當時未償還額貳拾  
 壹万六千田ヲ新公債<sup>利率年</sup>ニ借替ヲ為シ爾來八ヶ年間毎年貳  
 万七千田ヲ償還ス豫定ナリ方四三年及四四年ハ豫定金額ヲ大正九年ニ等  
 ヲ償還セシニ依リ現今未償還額ハ僅カニ拾万八千  
 右市區改正ノ事業ハ豫期ノ計画ヲ遂行シ今  
 ヤ將ニ其目的達セシトス其功勞ハ長ニ新市  
 街ノ繁榮ト共ニ泯滅スルコトナカニキカ  
 前記市區改正ニ関聯シテ記スヘキハ熊本市  
 信管理局ヲ熊本市ニ設置セラル、ニ當リ本

(2)

市大藏省專賣局煙草製造所設置ト左様本市ノ繁榮上最有利ナル事柄ニ屬ス其經費六万円ヲ授シテ之ヲ建設シ之ヲ同局ニ供シタリ而カシテ同局ヨリ交付スル借家料ヲ以テ經費利金ノ支拂ニ充テ尚永久同局ヲ据置カル、事トナレハ前記ノ金額ヲ以テ賣却スル、契約シ之レカ為ソ本市ハ管理局ヲ本市ニ設置セラル、ノ企望ヲ達シ經濟上何等ノ鉄損ヲ見サルニ至レリ是等ノ點モ辛島市長苦心ノ跡ヲ認ムルニ足レリ

### 第二教育

辛島市長カ市ノ教育事務ニ盡セル功勞ハ既ニ文部省ノ認ムル所トナリテ昨年特ニ選奨

金ヲ下賜セラレタリ茲ニ其施設ノ一斑ヲ記

セシ

(一) 初等教育ハ就任以來最モ力ヲ用ヒタル所ニシテ先ツ其設備ニ付テハ初ヨリ漸進主義ヲ取り民度ト實カトノ平衡ヲ失ハサラシコトニ注意シ徒ニ外觀ノ義ヲ術フカ如キハ之ヲ避ケカノラ實用ヲ旨トシ着々其歩武ヲ進メテ改善ヲ施シ以テ今日ニ至シリ今ヤ現在十一ヶ小學校ノ中殆其大部分ノ設備ヲ完成セリ而シテ其新設ニ備ハセリハニ校ニシテ他ハ改築又ハ増築ニ屬セリ之ニ要セン費用ハ最近四五ヶ年ニ於テモ二十万円以上ニ上リ教育費ノ市費總額ニ

對スル歩合ハ五分五厘以上ヲ算スルニ至  
レリ

内容改善ニ付テハ幾多ノ方法ヲ講シテ以  
ラ之ヲ充實センコトヲ第一相當資格  
アル優良ナル教員ヲ得テ之ヲ適當ニ配置  
スルハ教育上最モ必要ノコトナリトシ此  
点ニ向テカヲ致シタルニ因リ今日ニ於テ  
ハ學級數以上ノ正教員ヲ有スルニ至リ就  
中理科手工圖画國語ノ各科ハ高等師範學  
校卒業者若クハ中等教員ノ免許狀ヲ有ス  
ル教員ヲ置キ之ヲ担任セシムルカキ以  
テ其一班ヲ見ルハ第一專務視學一人ヲ  
置キ專ラ學校ノ視察及教員ノ指導ニ當ラ

シメ第三教員ノ為メニ常時及臨時ノ講習  
會ヲ開催シテ各種學科ノ研究ヲナシシメ  
第四三々年一回市内各小學校聯合教育品展  
覽會ヲ開設スルノ内規ヲ設ケ生徒ノ平素  
作成セル成績品及教師作成ニ係ル教具方  
案等ヲ出陳セシメ教員及生徒ヲ作興奮勵  
セシメ第五市内ノ中央ニ市内各小學校ノ  
共同學校園ヲ設置シアラユル植物ヲ植栽  
シ實物教材ノ用ニ供セシメタル等尤モ若  
心ノ存スル所ニシテ今日熊本市ニ於テ  
小學校設備稍完備シ就學歩合九二・三五  
達シ出席歩合亦九六七ヲ下ラサルノ盛況  
ヲ呈スルモノ一々其施設ノ宜シキ得タル

=職由セスハアラス  
 (二) 特種教育トシテ現ニ經營シツ、アルモノ  
 ハ工業徒弟學校實科高等女學校商業補習  
 學校及幼稚園等ニシテ其工業徒弟學校ハ  
 元ト飽託郡設立ニ係リシモ其校運振ハス  
 シテ遂ニ廢校セシトスルニ際シ熊本市ニ  
 引受ケタルモノニシテ目下建築家具塗料  
 ノ三科ヲ設ケ現ニ七十名ノ生徒ヲ收容シ  
 大正九年度ノ經費總額ハ四千八百九十九  
 円四十七銭ヲ算セリ本校ハ熊本市經營ニ  
 歸シヨリ日尚淺シト雖モ入學志願者モ漸  
 次増加スル傾向ヲ呈シ一面學校經營ニ改  
 革ヲ施シ又製作品ニ對スル世間ノ信用ヲ

加フルニ至リ殆ント其面目ヲ一新セント  
 ス尚本校ハ市外本山村ニ僻在シ不便ヲ感  
 スルコト少ナカラサルニ依リ近ク之ヲ市  
 内ニ移シ以テ益々改善ヲ圖ルト共ニ熊本市  
 ノ工業發展ニ資センコトヲ期セリ商業補  
 習學校ハ現ニ二校アリ學科目ハ國語算術  
 商業簿記英語ノ五科目ヲ授ケ修業期間ハ  
 六ヶ月ニシテ夜間ニ時間ノ教授トシ兩校  
 ヲ合シテ現在生徒ノ數百十二人ナルカ其  
 創設以來卒業生ヲ出スコト五百二十名ニ  
 達セリ其他女子教育ノ機關トシテ明治四  
 十四年度ニ於テ實科高等女學校ヲ創設シ  
 現今三學級百二十人ノ生徒ヲ收容シ明年



度ハ更ニ一學級増加ノ豫定ニシテ隆盛ニ  
向ヒツ、アリ尚ホ今ノ縣立熊本商業學校  
ハ市立商業學校ノ後身ナリ市立商業學校  
ハ元ト簡易商業學校ナリシヲ辛島市長ノ  
就職後中學校ト同一程度ニ進メラ校運ノ  
擴張ニ努メタルカ爾來實業學校ノ勃興ト  
共ニ入學生徒俄ニ激増シ入學志望者ノ半  
數ヲモ收容スルコト能ハサルノ盛況ヲ呈  
スルニ至シリ此ノ如ク膨脹ノ結果市ノ經  
済上其維持ノ困難ナルト又學校ノ性質上  
之ヲ縣營ニスルノ適當ナルトニ依ラ明治  
三十四年度ヨリ縣立ニ変更セシメタルモ  
ノナリ以上數ヘ來シハ辛島市長カ就職以

來特種教育ニ付テ施設經營シタルモノ少  
ナカラズ而シテ其卒業生カ各習得セル業  
業務ニ就キ直接間接ニ社會ニ貢獻セルモ  
ノ幾何ソヤ<sup>熊本</sup>市長ノ功亦決シテ没スヘキニ  
アラズ

(三) 社會教育トシテ或ハ壯丁ノ入學前ニ豫備  
講習ヲ開催シ軍隊ニ関スル事項ト普通學  
科トテ一定期間講習セシメ或ハ教育會長  
トナリ其會ノ事業トシテ通俗講談會ヲ用  
キ商工業ニ関スル知識ノ啓蒙ヲ圖リ又教  
育會ノ事業トシテ市内ノ中央ニ教育俱樂部  
部ヲ建設シ新刊圖書ヲ備ヘテ會員ノ閱讀  
ニ供シ以テ新知識ヲ得ルニ便ナラシメ其

他娛樂ノ具ヲモ備ヘテ教育ノ目的ニ及セ  
サレ限リ他ノ集會ニモ供シ一致ニ公衆ノ  
便ヲ蓄ルルカ如キ孰レモ適切ナル措置夕  
ルヲ失ハス

第三衛生

衛生事務ニ就テハ市内各町ニ衛生組合ヲ設  
置シ衛生上ノ機関トシテ活動シ又公共溝渠  
ノ浚深汚物掃除等相当ノ部署ノ下ニ間断ナ  
ク勵行シ且市民ノ健康ヲ保持スル上ニ於テ  
公衆衛生上上下水道ノ布設ノ最大急要ナル  
ヲ認メ既ニ下水道工事ノ設計ハ數年前ニ調  
査結了シタルモ偶々地方經濟界ノ大恐慌ニ  
遭遇セシ為メ実行ヲ中止シ近年再ヒ企畫ス

ル処アリテ上水道下水道共専門技術家ニ囑  
託シ其設計モ畧ホ完了シ今日市會ニ向テ諮  
問中ニ屬シ必然実行ヲ見ルニ至ルヘシ又傳  
染病流行ニ際シ檢疫消毒ノ方法並設備ハ勿  
論患者ヲ收容スヘキ避病院ノ如キハ最モ完  
備シ敷地千五百六拾三坪建物貳拾八棟總建  
坪貳百五拾八坪八合六勺ニ達シ内容ハ院長  
一名醫員二名藥劑師一名機關方一名事務員  
一名看護婦三名使丁掃除夫各一名宛ヲ常置  
シ内外ノ整理殆ト間然スル処ナキ迄ニ至リ  
全國各市ノ避病院ニ對比シ遜色ナキモノト  
認ム

第四納税整理

納税ノ整理ハ地方行政中最モ困難トスル所  
 ニシテ特ニ都市ニ於テ然トス熊本市ノ如キ  
 比較的細民多数ナルハ故ニ従来滞納者ヲ出  
 スコト少カラリシカ市長就職以來之カ矯  
 弊ニ力ヲ注キ吏員ヲ汰出し督促ヲ勵行シ  
 今ヲ嚴ニスルト共ニ一方日貫組合ト稱スル  
 納税組合ノ設立ヲ獎勵シ日々零細ナル會員  
 ヲ集メ貯蓄セシメ納税ノ便ニ供セリ其結果  
 トシテ各部落ニ之カ成立ヲ見現ニ實行ヲナ  
 シ成績稍ニ見ルヘキモノアリ其他納税ノ手  
 續ヲ郵便貯金法ニ依ラシムルノ便法ヲ開キ  
 又縣稅ト市稅ト同一時ニ徵收シ市稅滞納  
 者ヲ出サスル事ニ注意スル等アラユル手段  
 方法ヲ講シテ以テ滞納ノ弊ヲ矯メツ、ア  
 ルカ故ニ納税成績ハ著シキ佳良ニ向ヒ每期  
 納稅前允五六分ハ必納入済トナルノ結果ヲ  
 呈セリ

第五基本財産ノ造成

本市ノ財産ハ市制實施前ヨリ少許ノ金額ヲ  
 蓄積シ之カ増殖ヲ圖リツ、アリシカ明治ニ  
 十五年ニ至リ始メテ基本財産ニ編入シ特別  
 ニ維持スルコト、ナレリ然ルニ社會ノ進連  
 ニ伴ヒ市政ニ要スル經費年々ニ増加シ來ル  
 ヲ以テ今一層基本財産ヲ蓄積シテ市財政ノ  
 餘裕ヲ存シ以テ經費ノ増加ヲ支ヘ課稅ノ煩  
 ヲ減シ或ハ不慮ノ災害ニ備フル等ノ最大急

要ナルヲ感シ明治三十六年二月基本財産蓄積條例ヲ新設シテ大ニ蓄積金額ノ増加ヲ企テ益々之ヲ鞏固ナラシメタルノミナラス其金額ヲ拾萬圓ニ達スルヲ期シ年々該條例ニ基キ基本財産ヨリ生スル收入歳計剩餘金三分ノ一以上官有使用地收入修理保存ノ費用ヲ負擔スル堤塘道路土居敷等ヨリ生スル收入ハ悉ク該財産ニ編入シテ、アリシガ其内市民ヨリ寄附シタルモノ等ヲ加ヘ当初僅カニ三千五百圓ニ滿タサシメシ金額ハ現今拾四萬五千三百三拾六圓六拾九圓五厘ニ達シ最初豫期シタル拾萬圓ノ金額ヨリ遙カニ超過シタルヲ以テ尚條例ヲ改正シテ三拾萬圓

ニ達スル迄蓄積スルコトニ決定セリ此外先年陸軍特別大演習奉行之際宮内省ヨリ下賜金壹千五百圓細川侯爵ヨリ寄附金壹千圓ハ別途教育基本財産ニ編入シ其分モ既ニ五千八百四拾九圓六拾四錢四厘ニ達シ一學校限リノ基本財産七百八拾六圓九拾錢九厘市内一部落有基本財産貳萬八千百五拾貳圓四拾五錢四厘及ヒ管理方法ハ何レモ將來紛擾ヲ生シ易キ個人貸付ノ如キ一切之ヲ避ケ國債証書若クハ確實ナル有價証券及銀行預金ニ依リ整理シテ、アセリ

又各部落即チ市制実施前戸長所管區域限リニ存在スル財産ノ整理ニ就テモ疾クニ條例

ヲ設ケ委員制度ノ下ニ<sup>之ヲ</sup>管理セシメ市ノ基本  
財産ト同一ニ國債証券確実ナル有價証券又  
ハ銀行預金等ニ制限シ健全ニ増殖維持ノ方  
法ヲ必<sup>カ</sup>テモタリ

### 第六度政

辛島市長ノ事ニ當ルヤ精力ヲ傾倒シテ直情  
徑行其目的ヲ達セスレハ止マサルノ概<sup>ア</sup>、平  
素事務ヲ執ルニハ周到ナル注意ヲ拂ヒ細微  
ノ点モ尚ホ缺陷ナキヲ期シ輕易ナル事モ理  
義ノ明徹ヲ要求セリ殊ニ市ノ經濟ニ對スル  
ノ急極ノヲ親切ニシテ諸事俟ニ從ヒ務メテ  
經費ノ節約ヲ圖シテ又事務ノ整理ハ度政ノ  
基礎ナルヲ覺リ從來不備欠点多カリシ諸規  
定ヲハ就職後着々制定又ハ改訂ヲナシ之ヲ  
印刷シテ以テ吏員ニ頒テ公文書類ノ如キ夫  
々保存期限ヲ設ケテ編類ヲナス等々ニ整理  
ノ実ヲ舉ケタリ

官位勲功	從七位勲五等	氏名	辛島	格
爵博士		舊氏名		
府縣族籍	熊本縣士族	籍地		
生年月日	嘉永七年五月十日	産地		
原籍	熊本縣熊本市塩屋町裏三番丁十三番地			
現任所	左 市新屋敷所三百五十四番地			
年号月日	任 免 俸 給 賞 罰 事 故	官衙		
明治十二年三月廿三日	熊本師範學校副監事申付候事	熊本縣		
	但月給金拾五圓			
公五年一月十九日	公立熊本師範學校教授方兼勤申付候事			
左 年五月廿日	自今月給金拾七圓給與候事			
公五年四月廿六日	依願免職務候事			
左 年五月七日	任熊本縣上益城郡書記			
	但十一等相當			
公五年六月十日	上益城郡役所ヲ兼テ上下益城郡役所被買			
履歴用紙				
明治五年七月六日	任熊本縣上益城下益城郡書記	熊本縣		
	但十一等相當			
公五年八月廿四日	十等相當申付候事			
公十年五月八日	依願免本官			
	滿一年以上勤績ニ付金拾貳圓之格致差遣候事			
公日	但三十日以内再任七八返納可致事			
公十年四月廿日	御用係申付候事			
	但准判任月俸貳拾圓			
公日	警察本署詰申付候事			
公五年七月廿日	任熊本縣警部			
	但月俸貳拾圓			
公九年七月廿日	初令第五十四号ヲ以テ地方官七割改正三年八月廿三日施行			
公五年八月廿日	叙判任官六等			
公廿五年五月廿日	任熊本縣屬			

全	日	叙判任官六等	全
全	廿二年 五月廿日	叙判任官五等	全
全	廿三年 三月廿日	勅令第百三十七号ニヨリ判任官四等上級俸	
全	廿三年 十月十日	勅令第百二十五号ニヨリ地方官之制改正	
全	廿三年 七月廿日	勅令第百八十三号ニヨリ五級俸ニ相當ス	
全	廿三年 五月九日	給四級俸	左
全	廿三年 四月廿日	任熊本縣八代葦北郡長	内閣
全	廿三年 六月廿日	叙高等官八等	左
全	廿三年 六月廿日	叙正八位	宮内省
全	廿三年 十月十日	勅令第百六十二号ニヨリ地方官之制改正之全案五月廿日施行	
全	廿三年 七月一日	勅令第百五十五号ニヨリ郡役所分割	
全		任熊本縣八代郡長	内閣
全		叙高等官八等	左
全		陸叙高等官七等	全
履歷用紙			
全	廿二年 一月廿日	叙従七位	宮内省
全	廿三年 九月十日	非職ヲ命ス	内務省
全	廿三年 九月三日	熊本市長就職	
全	廿三年 九月九日	非職満期	
全	廿三年 九月廿三日	熊本市長任期满限	
全	廿三年 九月廿日	熊本市長就任	
全	廿三年 四月一日	叙勲五等授雙光旭日章	
全	廿三年 九月廿日	熊本市長任期满限	
全	廿三年 九月廿日	熊本市長就任	
全	廿三年 九月廿日	熊本市長就任	
全	廿三年 一月廿日	熊本市長退職	

内務省  
九二

内務省 秘 九二

別紙 元熊本市長從七位勲五  
等 辛島格叙位ノ件上奏書進  
達ス

大正二年四月十六日

内務大臣 原

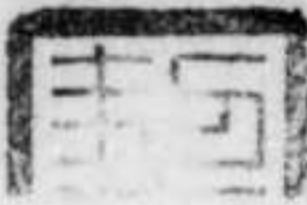
敬



内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

内務省





五月廿三日

丙

二五三

一、河上佐五等幸高 於

右五月二十二日特有以河上佐五等幸高 室下在幸高

佐五等幸高 及河上佐五等幸高 及河上佐五等幸高

右之河上佐五等幸高

右之河上佐五等幸高

字 佐五等幸高

内務大臣

宮内省

(二)

裏面白紙

306